

視野広げ進路に生かす

高校の教室に新聞を

各校の取り組み紹介

気軽に活字に触れる

野辺地西



それぞれ関心のある記事について意見を交わす生徒たち

「教室で気軽に読めるので、生徒が新聞を読む習慣がついてきた」と手応えを語る。「ネットの情報よりも新聞の方が信頼できる。文章構成も含めて新聞を参考にしたい」と信頼性を強調した。バドミントン部の太田いたるさん(16)は「高校総体の結果を見て、対戦相手の情報を参考にしている。新聞を読んで、難しい漢字も読めるようになった」と喜ぶ。将来は起業するのが夢だという新山蒼志郎さん(17)は「海外で働くのも楽しそうだと思うので、国内外問わず最新の情報を新聞で追ってみたい」と海外の大統領選挙の記事をチェック。野辺地町出身の横浜響葵さん(16)は町職員になるのが夢だとい、「公務員試験に備えて、文章を速く読めるようにたくさん記事

野辺地町の野辺地西高校(橋場保人校長)では「今日のニュース」と題し、新聞の活用を入れるクラスの日直が新聞から関心を持ったニュースを選び、感想を書いて

新聞ラックは2、3年生の教室に設置。新年度になって3カ月ほどだが、工藤教諭は

(小泉結香)

ニュースの詳しき魅力

▽教養進学系列2年・小野寺桃花さん(17) 将来は救急救命士や小児科医に興味があり、進学する予定です。テレビでは扱わないようなニュース



も詳しく載っているのが新聞の魅力。3年生からは受験対策で小論文の授業も始まるので、新聞を読んで語彙力を増やしたいです。

生徒が活字に触れる機会を増やそうと、2年2組担任の工藤蓮教諭(33)が「本を一冊読むのは大変かもしれないが、新聞の気になる記事なら読むハードルが低いのでは」と始めた取り組みだ。